

■ 生分解性プラスチックって何？

今話題の生分解性プラスチック。自然環境の下で微生物によって二酸化炭素と水に分解されるという、今までにない特性を備えた素材として、すでに多くの製品に利用されています。

このように環境負荷が少ないといわれている生分解性プラスチックですが、実際はどうか、私たちグリーンコンシューマーの目で調べてみました。その結果を報告します。

Q 生分解性プラスチックの特徴は？

- 通常のプラスチックと同じように使えます。
- 使用後は自然界の微生物や分解酵素によって水と二酸化炭素に分解される「自然に返るプラスチック」です。
- 分解するという意味では、地中への埋め立てが可能です。
- 燃焼させても発生熱量が低く、ダイオキシンなどの有害物質が放出されないとのことです。

Q 生分解性プラスチックの種類は？(合成方法による分類)

- 微生物に養分を与えて培養・体内にグリーンプラを蓄えさせ合成させたもの。
- 植物由来のデンプンやカニ由来のキトサン等を利用したもの。
- 石油から化学的に合成する、ポリ乳酸や脂肪族ポリ等を利用したもの。

Q どのような物に使われているの？

従来のプラスチックと同じ感触で、透明性にすぐれているという特性を生かし、次のような物に使われています。

GD、ダイレクトメール用の封筒、請求書などの透明な窓部分、野菜や日用品などの包装材、衣類、自動車の内装材、ごみ袋、弁当容器、マルチフィルム(農業用)、釣り糸、手術用縫合糸

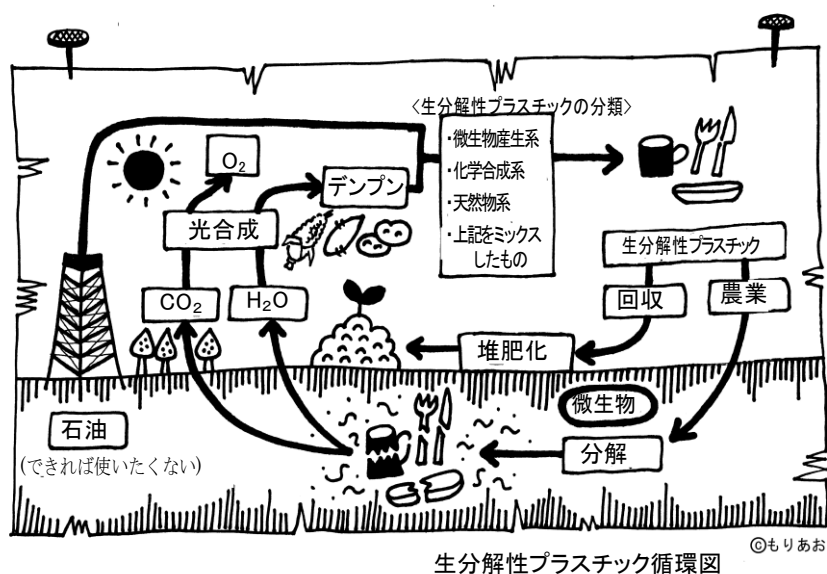
Q 本当に安全なの？

- 原料は輸入されているため、遺伝子組換え作物(GP)拡大のおそれがあります。
- 原材料の大量生産によって大地や水資源などを収奪する大規模栽培にもつながりません。
- 表示内容の漏れによる添加剤への安全対策が不備です。
- 製造メーカーで使用・原料が表示されないのが現状です。
- ラベリング制度が機能していないため、粗悪品などへの対応ができていません。
- 多くが廃棄・焼却処分されており、現状では生分解の性質を有効に利用できていません。

Q 望ましい生分解性プラスチックとは？

☆グリーンコンシューマー東京ネットより提案

- 大量生産・大量消費を前提としない用途に限ります。
- 使用範囲を限定しましょう。
- 石油原料を用いない、植物由来に限ったものとします。
- 遺伝子組換え技術を用いないものに限ります。
- 厳格な安全性の評価基準を徹底します。
- リサイクルルートの確保とマーク制度の充実が必要です。
- 第三者によるLCA*調査に基づく評価も必要です。



* LCAとはライフサイクルアセスメントの略。その製品に関する資源の採取から製造、使用、廃棄、輸送など全ての段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法。